

北九州地区小児科医会会報

(2018年2月号)

発行:北九州小児科医会(元気な子どもたち)
HP:<http://www.genki-kitakyu-ped.com>
会員フォーラム:forum.kitakyu-ped.jp
E-mail:jimukyoku@kitakyu-ped.jp
事務局:大原小児科医院内
福岡県北九州市戸畑区千防1-11-20

北九州地区小児科医会のご案内

第543回北九州地区小児科医会2月例会

日時 2018年2月15日(木) 19:00~
場所 小倉医師会館 講堂
講演:「日本の小児科医のこれから
~日本小児科学会の経験~」
演者:聖路加国際大学・聖路加国際病院
臨床准教授(大学院)
小児総合医療センター小児科 医幹
遺伝診療部(兼任) 島袋 林秀 先生

第544回(第78回北九州小児神経懇話会と合同)

日時 2018年3月16日(金) 19:00~
場所 小倉リーセントホテル
講演:「脊髄性筋萎縮症(SMA)の診断と治療
(仮題)」
演者:兵庫医科大学 小児科学講座
主任教授 竹島泰弘先生

2月産業医科大学小児科セミナー

日時:2018年2月22日(木) 19:00~
場所:産業医科大学大学2号館2階 2208教室
演題:大学院4年間の基礎研究を通して学んだこと
演者:産業医科大学小児科 齋藤 玲子 先生

3月産業医科大学小児科クリニカルカンファランス (第6回八幡地区病院小児科合同カンファランス)

テーマ 不明熱症例の診断を推理し、
その診断プロセスを学ぼう!!
日時:2018年3月12日(月) 19:00~
場所:産業医科大学大学2号館2階 2201教室
症例1:発熱、腹痛を主訴に来院し、腹部エコーで
胆嚢壁肥厚を認めた5歳男児
産業医科大学小児科 白山 理恵 先生
症例2:発熱、歯肉腫脹を認め、HSV抗体価が
陰性だった8歳男児
産業医科大学小児科 五十嵐 亮太 先生
症例3:発熱と排尿困難を主訴に来院した14歳女児
北九州市立八幡病院小児救急センター 杉 海秀 先生

3月産業医科大学小児科セミナー

日時:2018年3月22日(木) 19:00~
場所:産業医科大学大学2号館2階 2208教室
演題:その心電図本当に大丈夫?
-遺伝性不整脈の基礎と臨床-
演者:JCHO九州病院循環器小児科 宗内 淳 先生

その他の講演会等のご案内

第408回小倉小児科医会臨床懇話会

日時:2018年2月22日(木) 19:00~
場所:国立病院機構小倉医療センター
地域医療研修センター
演題1:甲状腺機能低下で発見された脳腫瘍の一例
演者:九州労災病院 小児科 浅井 完先生
演題2:家族性高コレステロール血症診療Update
演者:九州労災病院 小児科 河田 泰定 先生

第56回多職種で考える発達障害と療育研究会 (第13回発達障害勉強会)

日時:平成30年2月16日(金) 19:00~20:30
場所:北九州市立商工貿易会館 2回多目的ホール
講演:「ペアレントトレーニングの保育・教育
・医療現場での活用について」
講師:福岡県立大学
社会人間学部教授 福田 恭介 先生

第56回北九州小児血液・腫瘍懇話会

日時:2018年2月23日(金) 19:00~
場所:リーガロイヤルホテル小倉 4F エメラルド
一般講演:「未定」
特別講演:「AYA世代の特徴と患者としてのニー
ズ・支援~小児血液がん治療の治療をふまえて~」
演者:聖路加国際病院小児科 医長 小澤 美和 先生

会員の異動：

★勤務医異動

【北九州市立八幡病院】木村拓郎 (→大分こども病院)

協議事項：

1. 新役員の報告

新役員：平成30(2018)年2月～32(2020)年1月

会 長：三宅 巧

副会長：津田恵次郎

高橋保彦

監 事：岩崎哲巳

白川嘉継

理 事 門司：小松千代

小倉：古賀豊(会計)・渡辺恭子

八幡：中村久美子・富田一郎

戸畑：梶原康巨

若松：古村速

遠賀中間：栗野聡

京築豊前：前田公史

産医大：保科隆之

幹 事 市川光太郎(相談役)、大原延年(庶務幹事)、
天本祐輔、綾部信彦、神菌淳司、古賀一吉、
西村慎太郎、原田博子

平成30年からの委員会メンバーについて委員長に一任し次回役員会で決める予定です。

2. 第54回北九州地区小児科医会総会の反省

古村先生が中心に準備していただき、更に役員が協力して良い総会・懇親会が行われました。

報告事項：

1. 学術報告：神菌淳司

今後の講演会の予定です。

3月16日に小児神経懇話会合同の予定です。

4月はアレルギー懇話会合同の予定です。

5月は子どものこころ懇話会合同の予定です。

6月は感染症懇話会合同の予定です。

7月は産業医科大学担当です。

2. 発達障害・療育対策委員会

平成29年度「第3回多職種で考える発達障害と療育研究会」講演会(第13回発達障害勉強会)

の日程は以下のように決定しました。

日時：平成30年2月16日(金)19:00～20:30

場所：北九州市立商工貿易会館 2回多目的ホール

講演：「ペアレントトレーニングの保育・教育
・医療現場での活用について」

講師：福岡県立大学

社会人間学部教授 教授 福田 恭介 先生

第2回北九州ADHD Conference

日時：平成30年3月5日(月)19:00～21:00

場所：パークサイドビル9階 中会議室

講演：「(仮)ADHD診療の実際」及び症例検討会、
Q & A

演者：パークサイドこころの発達クリニック理事長

原田 剛志 先生

北九州小児ADHD講演会

日時：平成30年3月14日(水)19:20～20:45

場所：ステーションホテル小倉4階 豊饒の間

特別講演：「ADHD診療の実際」

演者：パークサイドこころの発達クリニック理事長

原田 剛志 先生

以上の講演会が予定されています。

インフルエンザの診療について

インフルエンザが流行する季節となりました。インフルエンザの診療についてご注意いただきたいことを確認したいと思います。この話題は毎年のように取り上げていますが、今シーズンも迅速検査や処方薬で問題となるレセプトが散見されています。

【初診の取り扱い】

保険診療メモでは何回も取り上げられる事項なので詳細は省略します。同系統の急性疾患では処方薬が無くなった日から一週間を経過した後に認められます。慢性疾患が併存している場合は認められません。前月までに便秘への長期処方や皮脂欠乏症への軟膏の大量処方などがある場合には、保険者が継続診療中と見なす場合があります。以前の傷病名と転帰、処方内容にご注意ください。

【検査】

インフルエンザ抗原迅速検査は一連のエピソードにつき2回まで認めています。2回目が認められるのは、1回目が陰性でその日の傷病名が「インフルエンザ疑い」、転帰が「中止」と記載され、2回目が発症後48時間以内に行われたものです。2回目が陽性であれば「インフルエンザ」、陰性であれば「インフルエンザ疑い」と「中止」としてください。また、「発熱が持続したため48時間以内に再検した」等のコメントがあれば「インフルエンザ疑い」の傷病名が1回でも構いません（2回目の検査日に転帰を中止とする）。一連のエピソードで48時間以上経過した2回目の検査や3回以上の検査は査定対象、また、「インフルエンザ」が傷病名として確定した（抗インフルエンザ薬投与の有無にかかわらず）あとの検査は査定となります。

一連の検査から1週間以上間隔が空けば、再度の検査は算定可能です。ただし前回のエピソードの傷病名を治癒または中止とし、かならず再度病名をあげて下さい。

その他の検査として、血液検査やCRP、画像検査、培養検査などを行った場合には、インフルエンザ以外の疑われた傷病名をご記載下さい。

【治療】

抗インフルエンザ薬としては、内服薬のタミフル、吸入薬のリレンザ、イナビル、点滴静注するラピアクタの4種類があります。近年の変更点として、タミフルが、新生児・乳児（1歳未満）が1回3mg/kg、幼小児（1

歳以上）が1回2mg/kgを一日2回5日間投与となりました。最高用量は1回75mgです。年齢による投与量の違いにご注意ください。その他の抗インフルエンザ薬の使用法は変更ありません。これらの薬の併用および連用（ラピアクタ→タミフルなど）は原則として認めておりません。タミフルの内服ができなかったためにラピアクタを投与した場合などには必ず詳記をお願いします。予防投与は、タミフル、リレンザ、イナビルで認められており、原則としてハイリスク群（65歳以上の高齢者、慢性心疾患、代謝性疾患、腎機能障害など）が暴露した場合に使用します。ただし、予防投与は保険診療の適応外です（初診料等を含め全て自費）。

対症療法として使用する薬は、上気道炎に保険適応あるものについてはインフルエンザの傷病名のみで認めています。一部の去痰薬、気管支拡張薬、抗アレルギー薬についてはそれぞれの適応傷病名が必要ですのでご注意ください。蛇足とは思いますが、抗菌薬を処方される場合は合併している細菌感染症名をお願いします。トスフロキサシンやデビペネムは適応症が限られていますのでご注意ください。

（福岡県小児科審査員連絡会）